

令和3年度 自己点検・自己評価報告書

学校法人野又学園
函館短期大学付属幼稚園

学校法人野又学園 函館短期大学付属幼稚園
令和3年度 自己点検・自己評価報告書 目次

I	建学の精神、教育目標	
1.	建学の精神と学園訓	1
2.	教育目標	1
3.	重点目標	1
II	教育の実施体制	
1.	施設型給付幼稚園に移行して	2
2.	教員組織	2
3.	学園関連校との連携	2
4.	学習環境の整備・なかよしファーム	3
III	教育内容	
1.	教育課程の編成と実施	3
2.	特色ある教育活動	4
IV	園児に関すること	
1.	園児数	6
2.	園児募集	6
V	教員に関すること	
1.	教員の資質向上	7
2.	教員の研修	7
VI	社会との連携に関すること	
1.	地域社会との連携	8
2.	P T A活動	8
3.	広報活動	9
4.	子育て支援活動『つぼみちゃん活動』	9
VII	管理運営	
1.	学校運営	10
2.	危機管理体制	10
3.	自己点検・評価体制	10
VIII	財務について	
1.	財務運営について	11
2.	予算編成方針と執行状況	11

(別紙 資料)

① 令和3年度 保護者の評価の集計結果と考察

学校法人野又学園 函館短期大学付属幼稚園
令和3年度 自己点検・自己評価 報告

I 建学の精神、教育目標

1. 建学の精神と学園訓

幼稚園が創立してから54年を経過して、道南・函館市の幼稚園教育の発展に寄与してきた。学校教育法によると、「幼稚園は幼児を保護し、適当な環境を与えて心身の発達を助長することを目的とする」とある。

創立者はこの時期こそ、人間形成の基盤を確立する時であると考え幼児教育からの学園の一貫教育を目指した。

この建学の精神を踏まえ、本学園は幼児教育に相応しい環境を与えるための施設設備に最大の努力を払うとともに、教員の資質の向上こそが質の高い保育を目指す上で基盤になると考えて、研修活動の充実を図ってきたところである。

2. 教育目標

本園は、建学の精神の具現化に努めるとともに、学園訓を園児たちにわかりやすく理解できるように、日常的な活動と結びつけながら取り組みを行っている。

○ おとうさん おかあさん ありがとう 【情操】

- ① 豊かな情操（感謝・感動）
- ② 社会態度（協調・思いやり）
- ◎ 色々なものに美しさを感じ、豊かな感性をはぐくむ
- ◎ 身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ
- ◎ 人の言葉や話をよく聞き自分の経験したことを話そうとする

○ すなおに ただしく おぼえましょう 【知的】

- ① 思考力（考える力・工夫する力）
- ② 創造力（創造性・想像性）
- ◎ 自然の中の色々な事象に興味や関心をもち遊びに取り入れようとする
- ◎ 身近な事象を見たり触れたりする
- ◎ 経験したことを自分の言葉で表現し伝え合う喜びを味わう
- ◎ イメージを豊かにもち、色々な表現を楽しむ
- ◎ 絵本や物語などに親しみ、想像を豊かにする

○ すすんで よいこと いたしましょう 【意志】

- ① 健康な身体（活動・意欲）
- ② 生活習慣（自主性・安定性）
- ◎ 幼稚園生活を楽しみ自分の力で行動しようとする
- ◎ 体を十分動かして進んで運動しようとする
- ◎ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける

3. 重点目標

『 すこやかに、たくましく そしてやさしい心を 』

- ① 豊かな環境で生き生きと育ちあう活動
- ② 自主性・創造性をはぐくむ活動
- ③ 小動物や自然に親しみ、豊かな感性をはぐくむ活動
- ④ 絵本や音楽、製作・表現活動に親しみ、豊かな感情をはぐくむ活動
- ⑤ 徒歩降園・遠足・登山などを通して、健康・安全への意欲を育てる活動
- ⑥ 給食や弁当を通して、家庭と協力しながら「食」の楽しさを味わう活動
- ⑦ 英語遊びを通して、外国との違いや日本のよさに気づく活動

II 教育の実施体制

1. 施設型給付幼稚園に移行して

平成28年度から施設型給付幼稚園に移行して、順調に各段階での取り組みを進め定着を図ってきたが、園児数減少は否めない状況にある。

①保護者への周知・理解

施設型給付幼稚園に移行するに当たって、27年度に説明会を開催し、今までの幼稚園との違いについて説明し理解を求めた結果、特に大きな混乱もなく移行することができた。

保護者からは、今までと同じような幼稚園として進めていってほしいとの要望が出され、保護者の意見、要望などを聞きながら進めていくことを確認した。

今年度についても保護者と話し合いを持ち、施設型についての要望や問題点の指摘はなく、スムーズに進めることができた。

②書類の作成・整備

移行後、各種書類の作成も順調に行えるようになり、給付がスムーズに行えるようになった。各種書類についても市と連携をとることで確実に提出することができた。

2. 教員組織

本園の専任・非常勤の合計教員数は、園長1人、教頭1人、教諭8人、非常勤講師10人、事務1人、給食補助1人で合計22人である。

専任教員の年齢別構成は、60代1人、50代2人、40代2人、30代1人、20代5人である。平均年齢は37歳である。

【現状】

ここ数年、毎年2名位ずつ退職者いたため、短大の卒業生を毎年受け入れている。しかし、この2年間毎年1名の途中退職者を出している。他の先生方は学級担任として各自、力を発揮して、保護者の信頼も厚く、園児が安心して幼稚園生活を楽しんでいる。

【課題】

各クラスの保育に関しては、力量をつけつつあるが、園全体としての保育・教育についての質の向上に力を注いでいく取り組みが必要である。特に結婚退職が多く、教員経験の浅い担任が多い。現在ある7クラスの担任は、50代1人、30代1人、20代5人である。さらに、ここ2年続けて新採用者から途中退職者が出ている。

3. 学園関連校との連携

学園の各校とは、日常的に連携を強化しているが、特に、函館短期大学とは連携協定を平成25年に結び、付属幼稚園としての機能を発揮できるようになった。

○ 函館短期大学

- ・ 学生が園児と関わる活動を多く取り入れる。(観察実習等)
- ・ 運動会において、ボランティアとして園児の面倒をみてもらう。
※今年度は、コロナウイルス感染症のため中止

○ 函館短期大学付設調理製菓専門学校

- ・ 今年度は製菓コースがなくなったことで、今まで行っていたケーキ作りでの交流が出来なくなってしまった。

○ 函館大学付属有斗高校

- ・ 幼稚園の運動会での施設利用、活用(6月27日)

○ 函館短期大学付属柏稜高校

- ・ 幼稚園の生活発表会での施設利用、活用(コロナのため中止)

- ・生活発表会での床用マットの借用（11月29日・11月30日）
- ・幼稚園クリスマス会でのお手伝い（男子学生4名にサンタクロースやトナカイになっていただいた）

【現状】

函館短期大学とは連携協定を結んでいることから、人的・物的にも幼稚園運営に当たって力添えをいただいている。他の関連校とも、連携を強め、各行事などでのお力添えをいただいている。

【課題】

今後、深堀保育園や上湯川保育園との連携を進め、カリキュラムや行事での園児や教員の交流・研修などを進めていく必要がある。

4. 学習環境の整備・なかよしファーム

保育を充実させるために、園の施設全体で、常に園児が学びを構成していけるような環境づくりに力を注いでいる。

園庭では、砂場の活用や固定遊具などで園児の遊びの内容を確実に広げていけるように整備を計画的に取り組んでいる。

ホールでは、縦割り保育や自由に遊ぶことが出来るような環境構成を作り上げていく取り組みを日常的に行っている。

○ なかよしファームの整備・活用充実

なかよしファームでの自然体験（幼稚園自然農園）野菜や果物の栽培

住宅地域にあるため、畑だけではなく、ビオトープ的なイメージで、自然環境を園児たちに感じていくことが出来るよう食物連鎖を見たり、感じ取ることが出来るよう職員・PTA役員ともアイデアを出し合っている。

a) 本年度は、園児が積極的に日常的に世話をして野菜や果物を育ていけるように園児が活動しやすいような道具を整備した。

クラスで育てるものを決めて、畑に自分たちで植えることで、水をやりながら植えたものの成長を確認した。

- ・春ダイコン（年長）— お泊り会で収穫して、家に持ち帰った。
- ・じゃがいも（年長）— 2学期になってから、収穫を体験した。
- ・さつまいも（年中）— 各家庭に持ち帰り食べた。また、給食に蒸かしたさつまいもを提供し全園児で食べた。
- ・トウモロコシ（年中）— 2学期になってから、収穫体験をし、家に持ち帰った。
- ・枝豆（年少）— 2学期になってから、収穫を体験した。給食時にも食べた。
- ・さくさく王子（ひよこ）— 1学期後半から収穫し、幼稚園で茹でて食べた。
- ・スイカ、ミニトマト、きゅうり、レタス、かぼちゃ、ブルーベリー、ぶどうなどを収穫した。

Ⅲ 教育内容

1. 教育課程の編成と実施

◎豊かな心と考える力の育成

中期経営目標 のびのびと遊び、多様な体験や経験をする中で、豊かな感性や知的な好奇心を養い、自ら考え取り組む意欲や態度を育てる。

短期経営目標 ・豊かに感じ、人とのかわりや様々な体験を通して思いやりや協同する力を育む。
・感動する心や物事に気づく力を養い、主体的に考えたり試したりする

ことで思考力を育てる。

① 英語遊び（5月～2月）……コロナのため各学年1家庭1回ずつの参観を実施

○年長組…ガルシア先生と一緒に発音や単語など、基本的な内容を繰り返し行う。
（16回）

○年中・少・ひよこ組…小林先生と一緒にリズムや踊りを通して、英語に親しんだり楽しむ内容を行う。（15回）

② リズム遊び（ひのき屋 5回 5月31日、7月20日、10月4日、
1月20日、2月3日）……コロナのため参観中止

・全園児がひのき屋の太鼓のリズムに合わせて踊ったりするだけでなく、太鼓叩いたり、楽器を鳴らしたりして、リズム感を養い、園児の身体の成長や脳の発達をしっかりと支える取り組みを行った。今年度もコロナのために、2学年ごとの2回遊びで行った。

◎ 基礎体力・運動能力の定着を図る。

中期経営目標 計画性をもって運動遊びや体づくり活動を充実させ、元気な基礎体力と運動能力を養う。

短期経営目標 ・日常から進んで体を動かし、運動の楽しさを感じとり、友達と元気に遊ぶ園児を育てる。

・遊具や備品・教材を見直し、安全に楽しく運動できる環境を整える。

① 体育遊び一（金曜日 18回）……コロナのため参観中止

・園児全体に、基本的な体づくりのための運動を中心に進め、各種のスポーツに興味を持ち楽しめるように取り組む。

② 水泳遊び一（木曜日 7回）……コロナのため各学年1家庭1回ずつ1名の参観

・今年度はコロナのために5月13日より11月4日まで、10回の教室を行う。

○園の周囲の散歩（桜ヶ丘通り 4月30日）

○園外保育（五稜郭公園 5月7日）：コロナのため園内飲食禁止のため、帰園後お弁当を食べる。

○エスポラーダと遊ぼう（函館アリーナ 6月19日 年長児）

○運動会（有斗高校 6月27日）

○函館山登山（9月17日）

○雪遊び（香雪園 1月21日）

2. 特色ある教育活動

1) 感性をゆさぶる園内外の自然環境の活用

・街の中にある幼稚園として、遊び、そして各環境を活用して園児に知的好奇心を育てるための取り組みを進めている。

① 園庭での自然体験

ア) 園庭の樹木

- ・四季折々に花を咲かせる花木類
- ・園の周囲の木々の色々な形や色の葉や実を活動に利用する。
- ・秋には園のシンボルでもあるかしわの木から、実や大きな葉を遊びに利用する。

② 園外での自然体験を通して、知的好奇心を育てる

○ 年間を通しての取り組み

ア) 桜ヶ丘通り散歩 (4月30日)

- ・幼稚園の近くの桜並木を園児全員で見て、春を感じながら散歩をする。

イ) 五稜郭公園遠足 (5月7日)

- ・五稜郭公園まで歩いていき、春を感じる。

ウ) いちご狩り遠足 (6月16日)

- ・広いいちご園の中で自由に園児の手でいちごを摘み取り、自然を感じる。

エ) 函館山登山 (9月17日)

- ・園児全員で、函館山の自然に触れながら、山頂を歩いて目指す。

オ) りんご狩り遠足 (10月5日)

- ・りんご園でなっているりんごを園児の手で摘み取り、実のなりを感じる。

3) 食育を通して園児を育てる活動

○ 食に関する興味を園児に持たせる。

① 稲のしろかき、苗植え (5月28日, 5月31日 年長児)

田んぼの土作りから体験し、苗を植えて稲の生長を観察した。

(ペットボトルでの栽培)

② 稲の観察・写生 (稲刈りまでの間, 継続 写生: 9月1日)

③ 稲刈り (9月14日 年長児)

自分たちの植えた稲の収穫を体験した。

④ 稲の脱穀 (10月7日 年長児)

自分たちの育てた稲の脱穀を体験した。

⑤ クッキー作り (10月21日 年中児)

年中児が保護者と一緒にクッキーをデザインし、焼いて完成させた。

⑥ 米のもみすり機 (精米) 体験 (12月13日 年長児)

森町濁川の農家山本さんが精米機を持参し、もみすり体験を行った。

⑦ もちつき (12月3日 全園児)

全園児と保護者が協力して、餅つきを行い餅作りを行った。

⑧ ケーキ作り (12月10日 年長児)

- ・ペシエミニョン・パティシエである本園保護者の指導の下、年長児がそれぞれの考えでケーキにデコレーションを行い、完成後、講評していただくことで感性を伸ばす取

り組みになった。その後、全園児でデコレーションしたケーキを食べた。

⑨ 玄米の試食（12月23日 年長児）

年長児が育てて収穫した米を、玄米として給食時間に試食した。

4) 園児を育てる幼小連携活動:コロナのため中止

・函館市立駒場小学校と連携を強め、小学校への入学がスムーズになるような取り組みを行った。

① みんなで遊ぼう 年長児と1年生の交流（年長児）

・駒場小学校の体育館で、年長児と1年生が交流を深める。

② ハロウィンを楽しもう 全園児と1年生と交流

・幼稚園のホールで、全園児と1年生でハロウィンを楽しもう会を行った。
その後、年長児と1年生でゲームも行った。

③ なかよしフェスティバル 年長児と2年生の交流

・駒場小学校の教室で、年長児と2年生が交流を深めた。

IV 園児に関すること

1. 園児数

園児数の推移は減少傾向にあり、さらには満3歳児での入園を控える家庭が多い傾向にあった。そのため、園児数の減少とともに給付費も減少している。そのため令和4年度のスタートは86名程度の園児数である。

◆園児数の推移（5月1日現在の園児数）

H 2 8 9 6 名	H 2 9 9 0 名	H 3 0 1 1 5 名	R 1 1 1 4 名	R 2 1 1 0 名	R 3 9 6 名
----------------	----------------	------------------	----------------	----------------	--------------

【課題】

ホームページを中心に幼稚園の様子等を知らせ、入園に結びつける活動を各機関と協力しながら進めることが必要になっている。また、入園希望者の8割はつぼみちゃんの参加者であることから、つぼみちゃんの活動を工夫しながら進めている。満3歳での入園を強く進めていくことが大切である。

2. 園児募集

園としての考え方がわかる募集要項を作成して活用を図っている。特に、通園にはバスを使わないメリットをしっかりと訴えてきた。

また、先生ブログの更新や園長の「かしわの木」の発信など、ホームページの充実を常に心がけている。

【現状】

今まで行っていた看板やポスターでの園児募集を止め、ホームページで幼稚園の様子を紹介するなど、幼稚園の良さを知ってもらう取り組みを続けている。

【課題】

幼稚園の考え方や教育内容をわかってもらうことで、園児獲得につながっていくので、そのための取り組みを園全体で考え取り組んでいく。

V 教員に関すること

1. 教員の資質向上

教育目標の達成をめざし、幼稚園全体、学年や学級で定期的に取り組みの状況を知らせ合うなど、家庭や地域との連携を深めるために、情報の共有化を積極的に推進し、日夜研鑽に取り組んでいる。

【現状】

会議等を日常的に行い、教員の資質向上に関することについて共通理解を図っている。各自の課題も持ちながら、その解決のために研修を深めている。

【課題】

学園の職員としての資質向上についても、力を入れていくことが必要である。新採用者に途中退職者が出ていることの要因を考える必要がある。

2. 教員の研修

幼稚園教育の状況が大きく変化してきている中で、教育情報を的確にとらえ、月に1回を全体での研修と位置づけ、その時に各自の個人の研究なども使いながら研修を深めている。

1. 研修会参加

- 1) サマースクール……コロナのため中止
- 2) 北海道私立幼稚園教育研究大会道南ブロック大会……コロナのため中止
- 3) 全道初任者研修会……コロナのためリモートでの開催
 - ・ 6月下旬から8月初旬にかけてリモート開催……阿部，近藤，依田不参加
 - ・ 第2期については，長期休業を挟むことがなかったので不参加

2. 園内研修会

1) 園内研修会

- ① 4月24日（土） 9：00～11：00
 - ・ 各クラスで気になる園児についての全職員の理解と交流
- ② 5月22日（土） 9：00～11：00
 - ・ 危機管理マニュアルの確認
 - ・ オンデマンド研修を活用して
- ③ 8月27日（土） 9：00～11：00
 - ・ 幼・保・小の連携強化の必要について
 - ・ オンデマンド研修を活用して
- ④ 9月25日（土） 9：00～11：00
 - ・ オンデマンド研修での事例を参観した後，グループ協議と全体協議

⑤ 10月23日(土) 9:00~11:30

- ・函館市特定教育・保育施設等関係職員研修会(ユーチューブによる動画での研修)
講演 テーマ「配慮を要する幼児の行動理解と具体的支援」
講師:北海道教育大学 函館校 特任教授, 名誉教授
青山 眞二 先生

⑥ 12月24日(金) 13:30~15:30

- ・道南地区私立幼稚園連合会職員研修会(ユーチューブによる動画での研修)
講演 テーマ「乳幼児期の絵本の読み聞かせを楽しむ」
講師:学習院大学 教授 秋田 喜代美 先生

⑦ 1月22日(土) 9:00~11:00

- ・オンデマンド教材の視聴から(北見市北光幼稚園の様子)
- ・協議

【現状】

幼稚園の現状としては、特別支援教育がとても重要な視点となっているため、短大に専門の先生が来ていただけたことは大変心強いところである。さらに研修機会を深めていくことが大切である。また、コロナ感染症への対策も今一度確認できる機会であった。

【課題】

なかなか時間を取ることができないが、全体で研修の時間を作り、これからの幼稚園の在り方について研修を深めていくことが必要である。

VI 社会との連携に関すること

1. 地域社会との連携

柏木町会などに園からの情報発信を積極的に行い、PTA・地域・小学校との相互のコミュニケーションを豊かにして説明責任を果たしている。

園の行事などについても、町会などに知らせることで、園と地域社会とのつながりを強めていくことになっている。近隣の小学校との幼小連携も駒場小学校だけではなく積極的に進める。

【現状】

柏木町会や柏木商友会などとの行事などにも積極的に協力を進めている。しかし、今年度もコロナのために行事は一切開催されなかった。

【課題】

近隣の小学校との連携を行事だけでなく、スタートカリキュラムなどについても研修等を企画していくことが求められているが、今年度はコロナのために一度も交流を行う機会を作ることができなかった。来年以降も継続することを小学校とも確認することが出来た。

2. PTA活動

保護者と教職員が一体となって、園児の健全な成長のための取り組みを積極的に行っている。幼稚園と価値観や活動を共有し合い協力を進めている。親子遠足、夏祭りなどの行事に対して主体的に活動を進めている。

(1) PTA子育て相談

小岩先生に子育てについての悩んでいることを相談できる機会を学期ごとに設けて、好

評を得た。

① 親子遠足（5月14日）

四季の杜公園で開催。園児はバスで、保護者は現地集合という型で行った。親子で楽しく過ごす取り組みを企画した、

③ 保育参観日（6月2日）……クラスを2つに分けて、時間帯別実施

（10月11日）……クラスを2つに分けて、時間帯別実施

③ 父母懇談会（7月8日）……コロナのため中止

④ 夏祭り（7月18日）……コロナのため中止し、9月28日に園児のみで実施

⑤ 父母懇談会（2月26日）……コロナのため中止

【現状】

P T A総務が中心となって、行事に対して積極的に活動を行っている。今年度はコロナウイルス感染症対策のために実施出来ない行事もあったが、内容を変更し外部の人を入れない形などで実施した。P T A全体が園に協力的で考え方を一緒にして活動を進めている。

3. 広報活動

園児募集に関しての広報のあり方が中心であったが、本幼稚園の良さを広く伝えることが有用と考え、広報の仕方を根本的に変更してきた。

園児にとって価値ある保育・教育を受けることが出来るという広報の仕方、特に、これから幼稚園に通うような幼児を持つ保護者に訴えるように広報を進めてきた。

募集ポスターの製作は止め、ホームページで幼稚園の日常の様子を紹介することで、どんな幼稚園かを知ってもらうことにした。

1) ホームページ活用・充実

・ブログ活用

ホームページのリニューアル化で、幼稚園の様子をブログで紹介することができるようになり、保護者から高い評価をもらった。

また、入園希望者がホームページをみて、園の活動内容などに賛同して入園を考える保護者が多くなってきた。

【現状】

園の活動の様子、特に行事などでは各報道機関に知らせ、取材が入ることもあり、広報の一つの方法としてできた。また、ホームページの利用者が多いため、この点を重視し活動している。

【課題】

今後は、各情報を的確に分析しながら、効率的に組み合わせて活用しながら広報活動に活用を図っていく取り組みを幼稚園内で進めて行く。また、ブログで様子を見ることができると、次は動画での配信を望む声が大きくなっている。

4. 子育て支援活動『つぼみちゃん活動』

未就園児（満2歳～3歳未満）の子どもとお母さんが、より多くの親子と関わり、親しみ、幼稚園で楽しく遊ぶ体験ができる場として、また、お母さん同士で子育ての悩みや相談などができる交流の場となるように活動した。

今年度も加入数が55組になり、常時20組以上の親子の参加がみられた。しかし、実施回数は新型コロナウイルス感染症のため、開始が1か月ほど遅れた上に、1月以降の開催が1度もなく、内容に対するアンケートを取ることができなかった。10回の開催となった。

また、この活動に参加するために幼稚園に来る機会が増え、満3歳児のひよこのクラスの活動を見学することで、入園を考える保護者が増えた。

【課題】

今後とも、幼稚園の教育活動を理解してもらう活動に力を入れていくことが求められる。また、満3歳を迎えたお子さんの家庭には入園を進めていく必要もある。

Ⅶ 管理運営

1. 学校運営

幼稚園を取り巻く環境等を冷静に分析することを通して、幼稚園の特色を生かし、組織的な創造力を発揮する運営体制を確立していく。教育目標の具現化を図るとともに、園児の達成状況が把握しやすいよう、行事などで園児の成長を読み取り、園児の成長の様子を具体的に具現化を図りながら、保護者などに示していく。

1) 預かり保育の充実

保育終了後、午後6時30分まで専任の職員を配置して預かり保育を実施している。

今年は新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業があり、年間のべ3800名程の園児の利用であった。しかし、活動内容を事前に月ごとに保護者に知らせることで、安心して預かり保育を利用するようになった。

2. 危機管理体制

令和元年度は、危機管理について、職員で共通理解を図ることができた。また、他機関との連携を図るなど、さまざまな危機を想定し、具体的な対応ができるよう危機管理能力の育成を図ってきた。

1) 防犯カメラの設置

防犯上の対応の一つとして設置している。今後、職員や保護者の危機管理の意識を高めていく。

2) 緊急通報システムの導入

降園時や屋外で出た時、緊急事態発生を知らせる緊急通報機器を6台契約し、降園時はもちろん、屋外に出る時に職員が携帯している。

【現状】

調理製菓専門学校と連携を図り、避難訓練や津波の時の避難場所としての練習などを行っている。

【課題】

降園時における危機管理について、園と保護者が協力をして対応を進めて行くことについて話し合いをもっている。

3. 自己点検・評価体制

教職員に年度末に反省を踏まえて、自己評価を提出してもらい、その分析と保護者の評価を基にして、全教職員と面談を実施している。

全教職員と日常的には共通理解を図る取り組みを行っているが、全教職員で年度末に課

題として残ったこと、次年度に積極的に取り組んでいくことを共通理解している。
また、毎年保護者に12項目にわたる評価表を渡して評価をしていただいている。

【課題】

次年度の幼稚園の経営や運営に活かしていくことが出来るように評価を整理し、共通理解を十分にしていくことが求められている。

Ⅷ 財務について

1. 財務運営について

少子化による園児の減少により、幼稚園入園者の減少は今後さらに加速していく傾向にある。そのため、幼稚園を施設型にしていくことで、国の施策の給金給付を進めていく。

今後一層の厳しい経営環境に備える必要がある。安定した園児確保のためにも、保護者のニーズに合うように対応を考えながらも、園としての考え方を前面に出し、園児獲得に取り組む。

施設が老朽化してきており、施設については積極的に改修改善を図り、安定した教育環境の維持・提供も必要になってくる。

【課題】

健全な財務運営のための園児獲得を積極的に進めていくためには、園の教育内容を広く周知してもらうための取り組みを積極的におこなっていく。

2. 予算編成方針と執行状況

予算編成においては、保育料ではなく、平成28年度から施設型給付になり、給付金収入になり、人件費や管理経費等の支出とのバランスをとり、単年度収支の健全化を図るようになっていた、今年度は赤字となってしまった。

予算の執行においては、その執行時に再度内容を精査し、より効果的に執行できる可能性を探り、支出削減に努めているが、各種の用具や楽器などの老朽化が目立ち、購入したため、例年のような支出削減とはなっていないと思われる。また、光熱水費においては、設備の経年による効率の悪化を配慮しながらも、よりきめ細かい管理による効率化を図っていきたい。施設内の照明については、今年度LEDとなった。園児数減少により、パート職員を減らすなども行うこととした。

老朽化してきている施設等の整備に関しては、随時、本部とも協議しながら対応を進めて行く。